

第4章 重点事業実績評価

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	平成31年度 目標	平成30年度実績	評価	検証・分析
基 2-1 No.4	教育・保育施設同士の連携強化と積極的交流	子育て推進課	一貫した就学前教育・保育が行えるように、教育・保育施設同士の連携や積極的な交流を図る。	地域における就学前教育施設間の交流会開催	充実	【保育所実施分】延べ98回 就学前施設との交流 24回 若手保育士が幼稚園にて一日体験 11回 市立幼稚園との交流 63回 ・保育所の若手職員が、幼稚園で1日体験し、幼稚園の教育・保育内容を学んだ。 ・地域の幼稚園や保育所等の就学前施設の子どもたちがお互いを訪問したり、小学校に行くなどして交流を深めた。	A	【量的評価】 前年度より、近隣の就学前施設同士の交流回数が増加した。（子育て推進課） 前年度に比べ、施設間交流の開催回が増加した。特に接続期に関する小学校区ごとの交流を延べ20回行った。（学校教育課）
		学校教育課				【幼稚園実施分】延べ80回 市立保育所との交流63回 市立幼稚園同士や私立保育園等との交流17回 幼稚園にて保育士の1日体験を年間11回行った。 特別支援について幼稚園と保育所との交流を行った。		【質的評価】 保育所職員が、幼稚園の生活を体験したことで、幼稚園の教育・保育への理解を深めた。地域の施設との交流で、子どもたちは、親しみを持ったり、同じ小学校へ就学する期待が高まった。（子育て推進課） 幼稚園と保育所の相互の教育・保育について理解を深めることができた。（学校教育課）
基 2-1 No.5	幼稚園教諭、保育士の人材育成と資質の向上	子育て推進課	幼稚園教諭、保育士、保育教諭等としての資質や指導力の向上のため、研修、実習等を通じた人材育成の充実を図る。	就学前教育における合同研修会の参加者数	407人	【保育所実施分】延べ参加者数1,162人 子育て推進課主催研修会 18回（市立及び私立 職員延べ592人） 各保育所主催研修会 21回（参加市立及び私立職員延べ285人） 保育士等キャリアアップ研修3回（市立及び私立職員延べ285人）	A	【量的評価】 研修回数が前年度より増え、学べる機会が増えた。保育所保育指針等3法令が改訂になり、そのための研修会も増えた。また、配慮を必要とする子どもたちの個別支援計画シートの書き方研修会を市立・私立施設にて行ったことで、研修会数が増えた。（子育て推進課） 教育委員会主催の幼稚園教育研究会及び研修会開催回数が増え、共に学ぶ機会が増えた。市指定研究会の参加者に関しては減少したが、総参加数は増加した。（学校教育課）
		学校教育課				【幼稚園実施分】延べ参加者数535人 就学前施設研修会 5回（延べ160人） 幼稚園・保育所・小学校合同研修会1回（延べ69人） 幼稚園教育研究会 5回（延べ105人） 特別支援研究会 3回（延べ131人） 市指定幼稚園教育研究会 1回（延べ50人） 幼稚園教諭の保育所への参観20人		【質的評価】 研修会の回数が増えたことで、職員が研修会に参加できる機会が増え、芦屋市の教育・保育の質の向上につながった。特に教育要領、指針改訂について学ぶ機会を何度も持つようになった。（子育て推進課） 就学前における教育・保育内容や教師のかかわりについて具体的に学び合い協議を通して、より良い保育を共に研究することができた。（学校教育課）

第4章 重点事業実績評価

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	平成31年度 目標	平成30年度実績	評価	検証・分析
基 3-1 No.1	地域における子育て 支援活動	学校教育課	あしや市民活動センターや幼稚園、保育所等の公共施設を利用し、子育ての情報交換・団体間交流・ネットワーク化を図り、地域における子育て支援活動の充実を図る。	公立の全幼稚園での未就園児とその保護者に対する施設開放実施回数	304回	幼稚園で空き教室や園庭を地域の未就園児に1,069回開放した。 未就園児交流会：延べ67回 園庭開放：延べ674回 3歳児親子ひろば：延べ305回 オープンスクール：（各幼稚園2～5回）延べ23回	A	【量的評価】 在園児や地域の未就園児が遊ぶ場を提供し、すべてにおいて実施回数を増やすことができた。未就園児も保護者も共に楽しめる機会となった。 【質的評価】 未就園児の遊びの場として定着し、保護者が子育てについて話をする等、子育て支援の機会になった。
基 3-1 No.3	公共施設の有効活用	子育て推進課	公的施設を子どもの居場所として有効活用できるようにする。	子どもが利用できる公共施設の周知	充実	子育てサポートブック発行：3,000部 子育てアプリ配信数：およそ月159件 子育てアプリリーフレット発行：2,000部 子育てアプリを積極的に活用し、市内の保育所・幼稚園・子育てセンター・図書館等で実施している未就学児対象のイベントに関する情報発信を行った。また、保護者が情報に触れる機会として配信対象年齢を限定してプッシュ通知設定を行い、より多くの登録者に情報が行きわたるよう工夫した。	B	【量的評価】 市内の子育て施設や子育て支援サービスの情報を集約した子育てサポートブック「わくわく子育て」を平成29年度と同数発行して市内の各公共施設に配布した。子育てアプリは、平成29年度と比べてひと月におよそ23件配信数が増えた。（子育て推進課） 職員による点検に加え、専門業者により95公園440基の遊具を点検し、安全性を確保できるよう努めた。（公園緑地課）
		公園緑地課		子育て世帯又は子ども自身の公園ニーズを把握し、その結果を踏まえた公園整備の実施	充実	公園施設が安全・安心に利用できるよう、樹木及び遊具等の適正な維持管理を行った。	B	【質的評価】 市内の公共施設で年間を通じて定期的で開催される親子で集えるひろば事業や幼稚園での園庭開放等についてはイベント欄で確認でき、その他随時発信される新しい情報はプッシュ通知とお知らせで確認できるようにして子どもの居場所の発信を行い、より多くの保護者に情報提供できている。（子育て推進課） 職員による点検や利用者からの要望を出来る限り速やかに反映できるようハード面での維持管理を実施する共に、要望に応えることが出来ない場合でもソフト面で改善できるよう努めた。（公園緑地課）

第4章 重点事業実績評価

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	平成31年度 目標	平成30年度実績	評価	検証・分析
基 3-2 No.2	犯罪等、子どもを取り巻く様々な危険性についての教育、啓発	子育て推進課	家庭、学校、地域及び関係機関が連携を図り、子どもや保護者に対して、様々な犯罪の危険性についての教育、啓発、情報提供等を行う。	子ども向けの防犯啓発リーフレット発行	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯訓練、災害訓練、避難訓練のいずれかを月1回実施した。 ・交通安全教室は各保育所で年2回行った。 ・避難訓練では、指定場所まで向かう訓練を必ず年2回行った。 	A	<p>【量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報を市内就学前施設に知らせ、防犯を促した。 ・定期的に防犯訓練を行い子どもたちに危険から身を守る方法を指導した。 ・交通安全教室を行い、芦屋警察の方より、交通ルール等について学び、保護者にも啓発を行った。 ・避難訓練では、地域の小学校、幼稚園と合同で訓練を行った。（子育て推進課） ・ALSOK防犯教室を実施し、小学校2年生に登下校安全教室、3年生に留守番教室を行った。また幼稚園・小中学校にて交通安全教室を開催した。 ・芦屋市・神戸市中学生徒指導連絡協議会を開催し、神戸市東灘区と連携し、問題行動の未然防止・早期解決を図った。（学校教育課）
		学校教育課		警察との連携による防犯講習会の実施			<p>防犯教室を年間13回実施（延べ1224人参加）</p> <p>交通安全教室35回実施（延べ3746人参加）</p> <p>芦屋市生徒指導連絡協議会11回開催</p> <p>芦屋市・神戸市中学生徒連絡協議会2回開催</p>	B
基 3-2 No.4	交通安全の意識向上	建設総務課	子どもの交通安全を確保するため、不法駐輪及び不法駐車をなくし、自転車マナーを守るよう啓発活動を継続する。また「交通安全教室」や「出前講座」等の実施により、交通安全に対する意識向上を図る。	市内で起こる子どもの交通事故件数	14件	<p>子ども（15歳以下）の市内での事故件数：15件（平成29年度：20件）</p> <p>交通安全教室の開催：66回（平成29年度：62回）</p> <p>幼稚園16回、保育所27回、小学校18回、中学校3回、その他2回</p>	B	<p>【量的評価】</p> <p>子どもの事故件数は、前年度より減少した。交通安全教室の実施件数は昨年度より増加した。</p> <p>【質的評価】</p> <p>小学校においては、前年度に幼稚園、保育所等で交通安全教室を受けてすぐに交通安全教室を受けることにより、より安全に注意することが学べてよかった。</p>